付近で、全浮動浮流し養殖を行い、後期は比較的、波浪の影響の少ない湾奥で、半浮動浮流し養殖を行う。シーズン中、最も良質のしまった空洞化しないモズクを生産している。（別紙、表－１参照）

「全浮動浮流し」は、図－２に示したように、水深10ｍ前後にサンドバッグをアンカー変わりに使用し、モズク網を支えるロープは、ポリ系の16㎜ロープを使用。1.5尺のフロートの間隔は、20ｍで網をしっかり固定した後、海苔伸子棒（直径30㎜×1.6ｍ）を１枚あたり２～３本取り付けて網全体を浮かす。網の適正水深は、その時期の気象状況により調整する。

「半浮動浮流し」は、図－３に示したように、水深４～５ｍの比較的浅い漁場で行われている。

設置方法は、全浮動とほとんど同様であるが、違う所は、フロートを使用せず、海底に両サイドのロープを固定し、海苔伸子棒で網を中間に浮かして養殖する方法である。

収穫方法は、全・半浮動式とも今村式ノリ摘機を使用している。

(2) 県下への導入と対応

県下で行われているヒビ建養殖は、全て固定式であるため、気象条件による網の上げ下げ等調整ができず、今年のような天候不順の年は日照不足による生育不良が、特に、水深の深い漁場ほど顕著である。

そういった観点から、表－１に示したように、養殖方法の改善等今後の大きな課題である。交流後の実践活動を1997年11月～12月にかけて、沖縄市と与那城町で、即、対応可能と思われる半浮動式について試みた。

中間結果をみると、現在のヒビ建養殖を利用した半浮動式では、両サイドの鉄筋クイに網が絡んで逆転したりして、十分な成果は待てない。今後、重点課題として取り上げ、本格的に取り組む必要がある。

５．所　感

奄美農水産の前田代表は、奄美は沖縄県のような広い漁場に恵まれてなく、量産化は望めないが、奄美でなければ作れないモズクを作りたい一心で、これまでの20年間頑張ってきたと胸を張る。

現、奄美式浮流し養殖方法も、これまで、試行錯誤を繰り返し、モズクの生産状況にあった養殖方法の改善、収穫後の品質の良さをもっとうに取り組んできた。

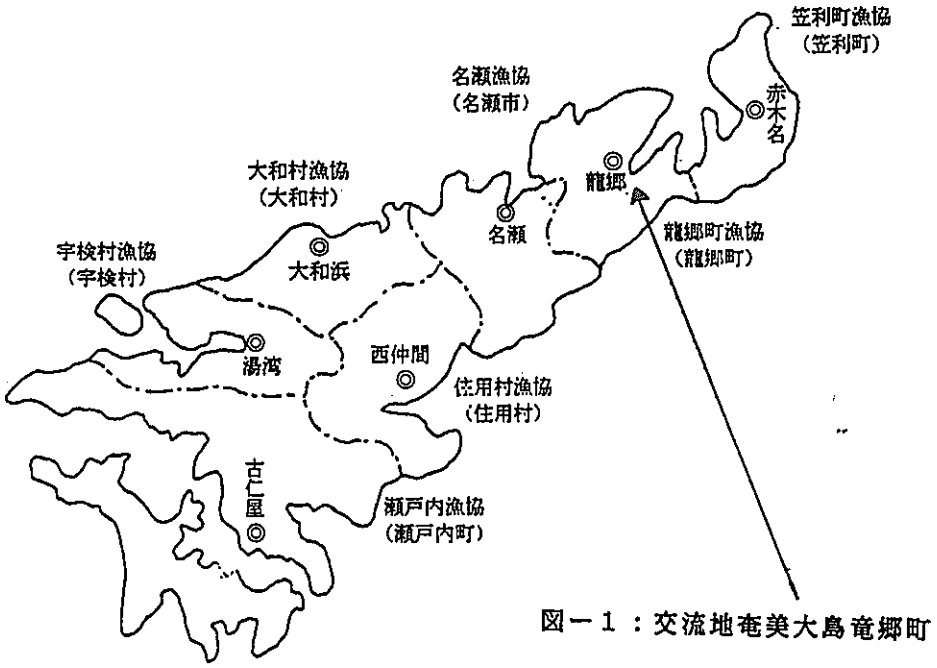
さらに、前田氏は、沖縄モズクは本来のモズクの良さが失われている、不健康なモズクと言う。確かに、交流会のメンバーも、微妙ではあるが、表－１に列挙したような肉質のしまったモズクが生産されていることには、一同、納得という所か。いずれにしても、量より質の時代が叫ばれて久しいが、前田氏は、繰り返すように、これからの新しい時代に向けて、いかにして、活きたモズクを消費者に提供できるかで、勝負が決まるものだと、交流会最後の意見交換で結んだ。

気象条件に左右されない、全・半浮動浮流し養殖の普及、改善に向けて、メンバー一同頑張ることを誓い、奄美大島を後にした。

※その後、浮流し養殖の実践については、平成10年度に竹富町小浜地区においてすばらしい、成果を上げた。
その成果をもとに、平成11年度から生育不良対策として、各地区で取り組み始めた。詳細については、モズク養殖生産者会議（もずく養殖業振興協議会主催）資料に掲載した。

表－1　ヒビ建養殖と浮流し養殖のちがい

養殖方法	メリット（利点）	デメリット（欠点）
ヒビ建養殖 （現在の養殖）	○ポンプ収穫が可能 ○養殖施設費は、少なくてすむ。	○日照時間の調整が不可能。 ○したがって、品質にアンバランスが生じやすく、品質管理が難しい。 ○固定されていて、漁場移動が困難。 ○すべて、潜水作業である。 ○将来的には、養殖場の規模拡大が難しい。
浮流し養殖 （新養殖方法） 奄美大島の事例	○日照時間の調整が可能である。 ○浮沈式のため、品質管理が容易である。 ○したがって、肉質のしまった空洞化しない良質のモズクが生産できる。 （地もとでは、活きモズクと呼んでいる） ○価格も沖縄産より若干高いようだ。 ○養殖施設等の移動も容易である。 ○潜水作業は、必要ない。 ○規模拡大が可能。	○ポンプ収穫が難しい。 ○収穫は、ノリ摘機を使用している。 ○藻体の伸びが、ヒビ建式より若干短いようだ。 ○養殖施設費が若干高め。



図－1：交流地奄美大島竜郷町

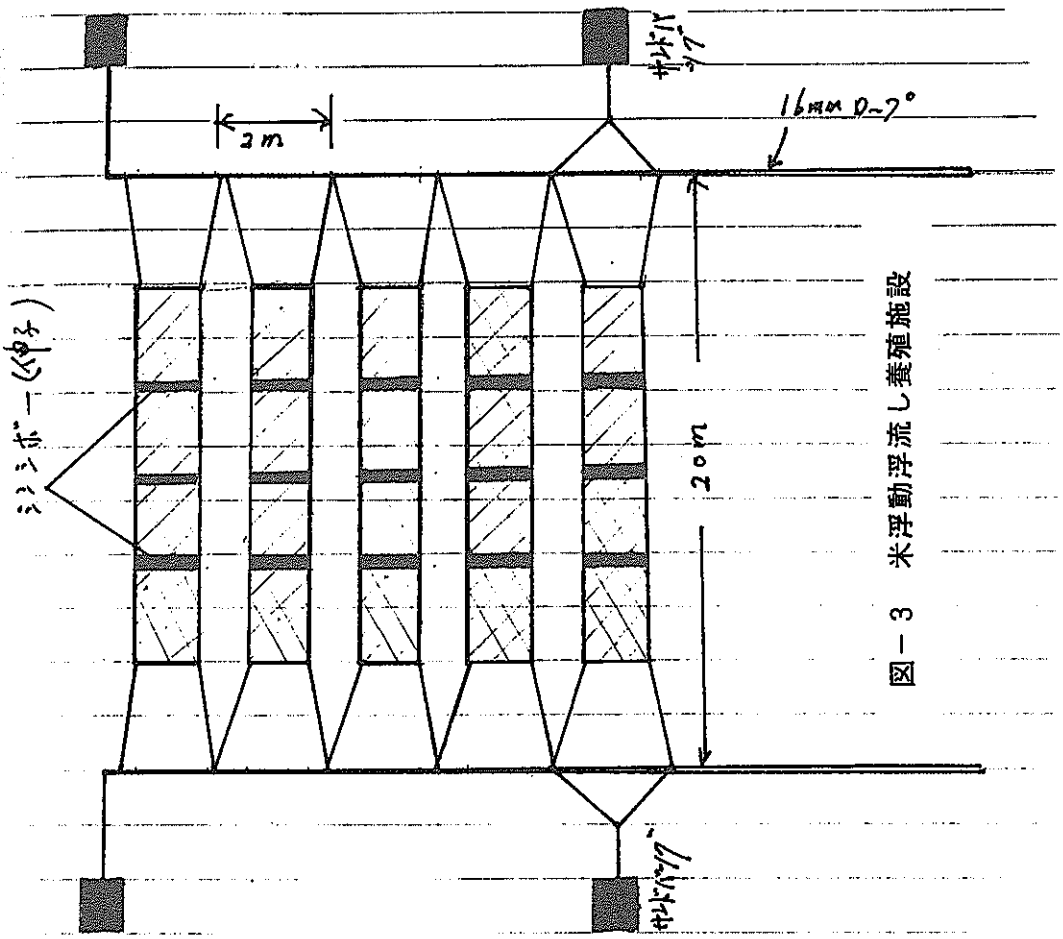
交流会参加者名

氏名	所属	漁業種類
新垣雅士	伊平屋村漁協生産部会	モズク養殖生産部会長
屋富祖正和	〃　〃	モズク養殖
嘉納増秀	〃　〃	モズク養殖
仲本康幸	〃　〃	モズク養殖
新垣清秀	伊平屋村漁協参事	
名嘉　章	伊平屋村役場水産係	
又吉　俊	県漁業振興基金書記	
瀬底正武	水産改良普及所主任専技	引率

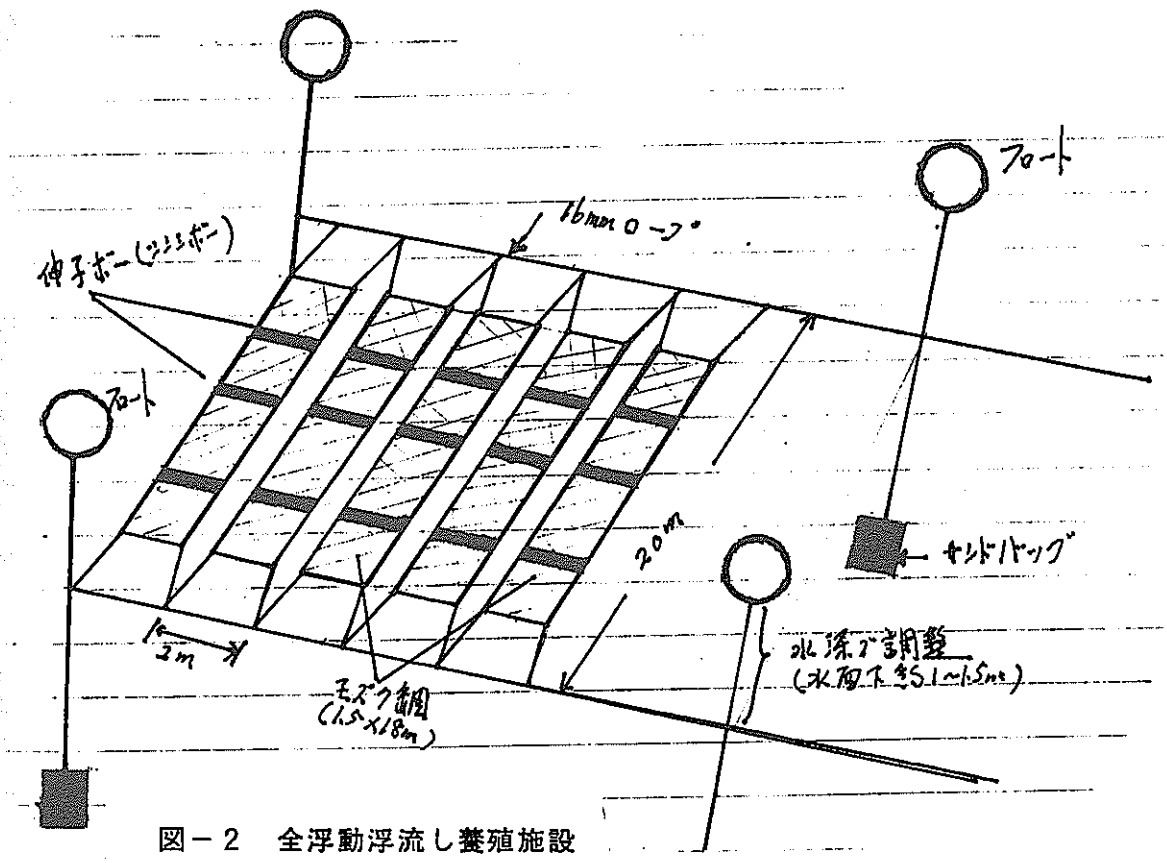
伊平屋村漁協・モズク浮流し養殖技術交流会日程表

（平成９年５月21日～23日）

月　日	行　程		交　流　内　容
1 日 目 （5／21）	9：00 伊平屋村発	10：20 運天港着	◇ホテルにて、日程打ち合わせ ◇名瀬市内観光（自由行動）
	12：45（ANA） 那覇空港発	13：35 奄美空港着	※空港発（奄美交通）バスにて、名瀬へ
2 日 目 （5／22）	9：00 ホテル発	10：00 奄美農水産着	◇奄美農水産（加工場）にて　『代表：前田　博氏』 1）奄美大島におけるモズク養殖の概要 2）浮流し養殖の概要
	10：00 浮流等概要説明	12：00 意見交換	ア．浮流しの構造　　イ．浮流しの設置方法 ウ．採苗から浮流し養殖収穫までの過程 エ．品質管理　　オ．流通（販売方法等）
	13：00～15：00 養殖場視察交流	16：00～17：00 竜郷漁協訪問	◇竜郷漁協訪問・漁協の概要等意見交換 電話：０９９７（６２）３２０４
3 日 目 （5／23）	14：10（ANA） 奄美空港発	15：00 那覇空港着・解散 （お疲れ様でした。）	◇名瀬漁協訪問・漁協の概要等意見交換 電話：０９９７（５２）５３２１ ※宿泊先：奄美セントラルホテル 電話：０９９７（５２）７１４１



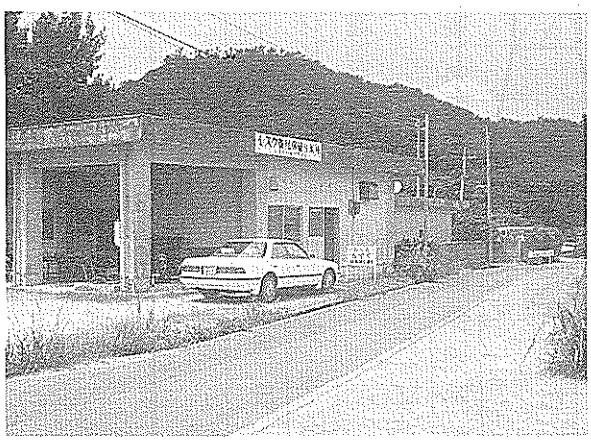
図－3　米浮動浮流し養殖施設



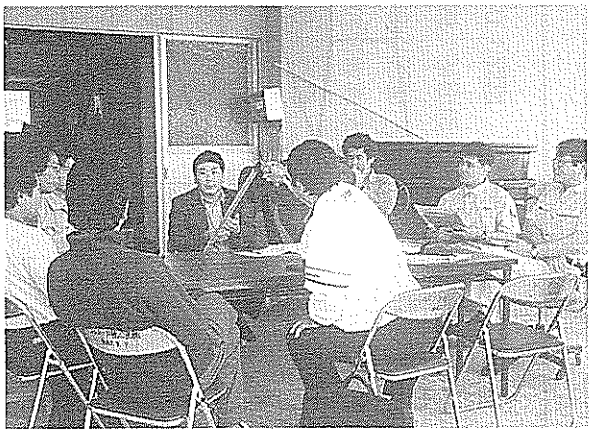
図－2　全浮動浮流し養殖施設

竜郷町漁業協同組合長 志村　悟氏より、漁協の概況等について、説明を受ける。

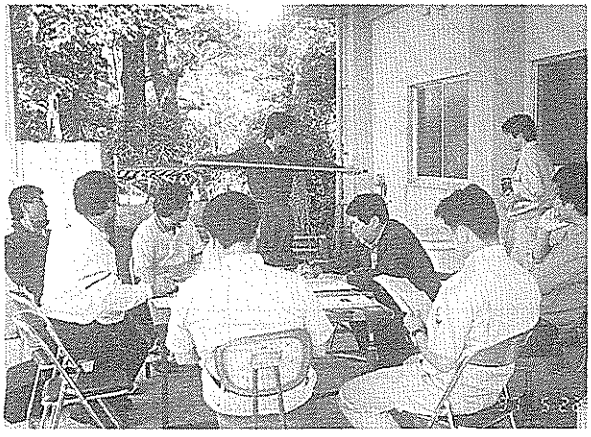
名瀬漁業協同組合長 日高幸夫氏より、厳しい漁業の現状について、話しを聞く。
メンバー一同納得。



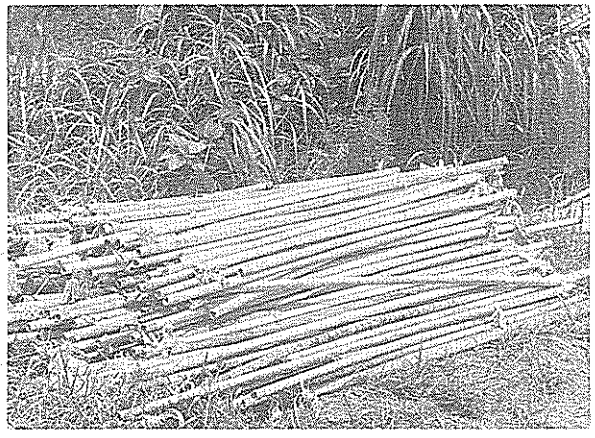
奄美農水産（代表：前田博氏）加工場



前田博氏より、浮流し養殖の概要等について、説明を受ける。奄美支庁商工水産課技術補佐野島通忠氏同行

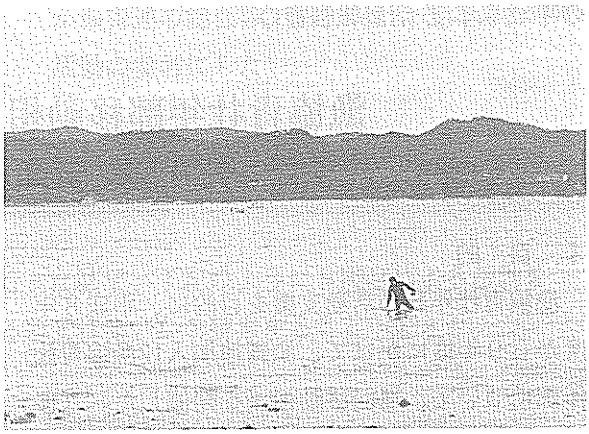


浮流しに必要なノリ伸子棒について、説明を受ける。

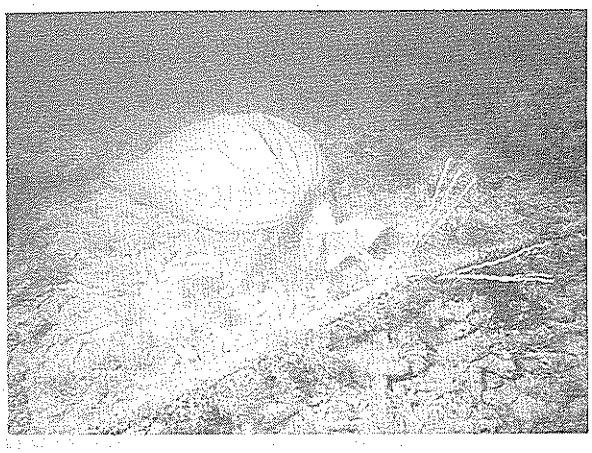


直径30㎜、長さ1.65ｍの伸子棒１網に２～３本結着

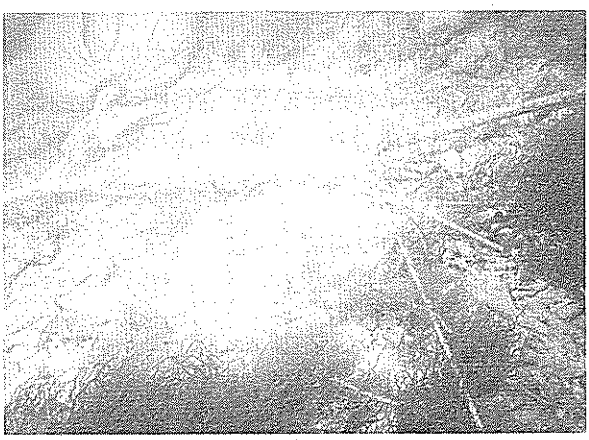
竜郷湾入口・全浮動浮流し（前期養殖漁場に使用）



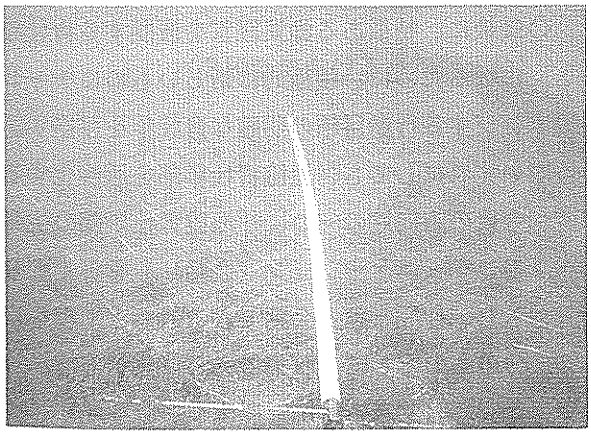
竜郷湾入口・半浮動浮流し（後期養殖漁場に使用）



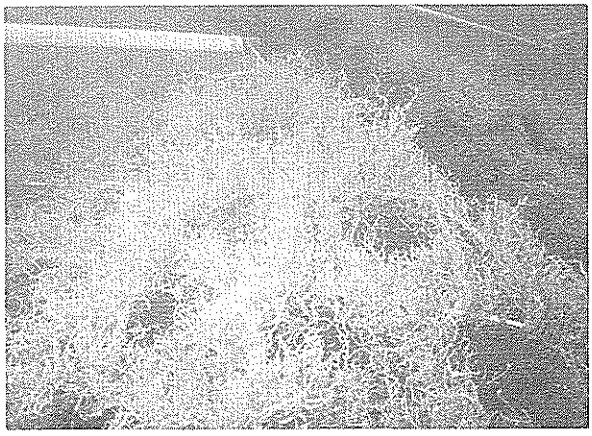
半浮動式のサンドバックによる外張り状況



左右の外張りにモズク網の両端の耳縄を結着する。



伸子棒の取り付け状況（１網に２～３本使用）



半浮動浮流しによるモズクの生育状況